

授業科目	＊英語の発音とリズムⅠ（B クラス）					実務家教員担当科目	－		
単位	2	履修	必修	開講年次	1	開講時期	前期		
担当教員	太田 かおり								
授業概要	この授業では、英語の母音・子音（分節音レベル）、リズムやイントネーション（超分節音レベル）に関わる英語音声の法則全般について理論と実践の両面から学ぶ。英語の母音・子音の発音法および聴取法について演習や発音訓練を通じて実践的に学び、日常的な英語の発音や聞き取りに自信がもてるようになることを目指す。また、英語音と日本語音の比較を通じて、両言語間の音声構造の違いについても理解を深める。国際音声表記(IPA)に関する基礎的な知識を身につけ、英語学習や英語教育にも活用できるようにすることを旨とする。洋楽や英会話表現などを通じて英語特有のリズムや音声的特徴について楽しく学ぶ。								
授業形態	対面授業			授業方法	ペアワーク				
学生が達成すべき行動目標									
標準的レベル	①英語の子音の調音点や調音方法について学び、該当の質問に答えることができる。（DP1-2） ②英語の母音や子音を自らが発音できる。（DP1-2） ③国際音声表記（IPA）を読むことができる。（DP1-2） ④英語特有のリズムや音声的特徴の基本について概ね理解している。（DP1-2） ⑤英語音の聞き取りや発音のコツを理解し、日常英語で活用を試みることができる。（DP1-2）								
理想的レベル	①英語の子音の調音点や調音方法について学び、他者にわかりやすく説明できる。（DP1-2） ②英語の母音や子音を自らがより正確に発音できる。（DP1-2） ③国際音声表記（IPA）を使って表記したり、IPA表記を読むことができる。（DP1-2） ④英語特有のリズムや音声的特徴について理解し、他者にわかりやすく説明できる。（DP1-2） ⑤英語音の聞き取りや発音のコツを理解し、日常英語で自然に活用することができる。（DP1-2）								
評価方法・評価割合									
評価方法		評価割合（数値）				備考			
試験									
小テスト									
レポート		50				0			
発表（口頭、プレゼンテーション）									
レポート外の提出物		20				0			
その他		30				演習課題や発音練習への取り組み			
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング									
DP1	○	DP2	－	DP3	－	DP4	－	ナンバリング	－
学習課題（予習・復習）									1回の目安時間（時間）
・ 授業で学習したことを実践的に復習する ・ 各自発音の到達目標を設定し、毎日発音と聞き取り練習に取り組む ・ 洋楽、TED Talk、海外のニュース番組などを聞き、シャドーイング練習をする									4
授業計画									

第1回	授業ガイダンス／音声学とは？／音声器官と音の分類 発音の録音課題(1)、今学期の発音向上に関する目標設定
第2回	英語の子音(1) 閉鎖音・鼻音 演習問題および発音訓練
第3回	英語の子音(2) 摩擦音 演習問題および発音訓練
第4回	英語の子音(3) 摩擦音・破擦音 演習問題および発音訓練
第5回	英語の子音(4) 測音・半母音 演習問題および発音訓練
第6回	英語の母音(1) 前舌母音・後舌母音 演習問題および発音訓練
第7回	英語の母音(2) 中舌母音・二重母音 演習問題および発音訓練
第8回	英語の母音(3) 二重母音 演習問題および発音訓練
第9回	音節と語強勢・文強勢 演習問題および発音訓練
第10回	ポーズ、ピッチとイントネーション 演習問題および発音訓練
第11回	音のつながり：連結(linking) その1 『子音＋母音』 演習問題および発音訓練
第12回	音のつながり：連結(linking) その2 [t, d, s, z]以外の子音＋[j] 演習問題および発音訓練
第13回	母音・子音に関する総復習 演習問題および発音訓練
第14回	リズム（強勢／連結）に関する総復習 演習問題および発音訓練 発音の録音課題(2)
第15回	総括 演習問題および発音訓練 発音向上に関する目標設定への自己評価
テキスト	必要に応じて適宜紹介する。
参考図 書・教材 ／データ ベース・	毎回の授業終了時に提出する振り返りフォームは、次時の授業にてフィードバックを行い、質問等への回答・解説を行う。 演習課題や発音練習への取り組みに関しては、教科書の演習課題や発音練習への取り組み態度等を見て個々に評価する。

雑誌等の 紹介	
課題に対 するフィ ードバッ クの方法	英語耳をつくるためには、いろいろな英語の音声に慣れる必要があります。そのためには、テレビ・ラジオ・インターネット・映画などを有効に活用して下さい。日常的に可能な限り英語を聞き、使ってみる努力をしましょう。
学生への メッセー ジ・コメ ント	